

陸上自衛隊祝園分屯地における火薬庫等整備に係る工事について
京田辺市における説明会 結果概要

陸上自衛隊祝園分屯地における火薬庫等整備に係る工事について、京田辺市主催で普賢寺地域の住民を主な対象とした説明会を開催し、防衛省近畿中部防衛局が説明及び参加者との質疑応答を行いました。

【結果概要】

- 1 日 時：令和7年7月22日（火）19：00～20：45
- 2 場 所：京田辺市立中央公民館ホール
- 3 参 加 者：約90名
- 4 京田辺市出席者：危機管理監、安心まちづくり室長、安心まちづくり室担当課長
防衛省出席者：近畿中部防衛局 企画部長、調達部長、地方調整課長、調達計画課長、事業監理課長
陸上自衛隊 中部方面総監部地域連絡調整室長、祝園弾薬支処長

5 主な質疑・応答

【① 工事内容・対策等に関する質問・意見】

(質問)

- ・ 4月から準備とされているが、すでに工事が始まっているのではないか。
- ・ 通行する大型の工事車両とは具体的にどのようなものか。
- ・ 工事を受注している元請けの会社はどこなのか。

(防衛省回答)

- 受注者は工事の契約を締結後、施工計画書の作成を開始していますが、実際に分屯地内の現場での作業にはまだ着手しておりません。
- 大型の工事車両は、いわゆる生コン車や10トンダンプトラックなどです。
- 今回の工事の元請けは、資料に記載している（株）鴻池組、前田建設・公成建設JV、（株）ユイビルドの3社です。

(質問)

- ・ 分屯地内のどこに火薬庫が整備されるのか。

(防衛省回答)

- 今後、整備する火薬庫の具体的な位置については、我が国の具体的な防衛能力が明らかとなるおそれがあるため、お示しすることはできませんが、祝園分屯地の敷地内において、火薬類取締法に基づく保安距離を確保した上で整備いたします。

(質問)

- ・ 河川等への影響の調査はしたのか。工事中の排水はどこに流れ込むのか。また、分屯地内の野生生物の調査はしたのか。

(防衛省回答)

- 河川については、資料の排水対策に記載しているとおり、調整池を設置して集中豪雨等の際の雨水の水流を抑制し、煤谷川に流す計画としており、京都府等の関係部署とも条例に基づき協議をした上で、沈砂池を設けて、濁水処理プラントによって濁度を調整して排水することで対策を徹底してまいります。
- また、近畿中部防衛局においては、今回の工事実施にあたり、京都府環境影響評価条例に準じて、自主的な環境調査を実施しており、その中で動植物の調査も実施しています。

(意見)

- ・ 資料に記載されている連絡先が受注業者になっているのはおかしい。住民から苦情などがあれば、発注者から受注業者に対してしっかりと指導・監督を行うべき。

(防衛省回答)

- 資料の問い合わせ先は、工事を実施した際に近隣にお住まいの方等からのご意見をいただくことを前提として、工事現場に常駐している受注者を連絡先として記載しております。ご意見をいただいた場合は、その内容を踏まえ、受注者への指導・監督を適切に行ってまいります。

【② 火薬庫の安全性に関する質問・意見】

(質問)

- ・ 事故なく安全に運用していくのは今後も大前提だと思うが、具体的にどのように安全に管理されるのか。

(防衛省回答)

- ・ 火薬類を取り扱う隊員に対し、安全管理に必要な教育を実施していること
 - ・ 火薬庫の所在する地区として、警備カメラを設置するなど必要な警備体制を構築していること
 - ・ 火薬庫の所在する地区とその周辺を含め火気厳禁としていること
 - ・ 庫内の照明等の設備も、火災の着火源となる電気火花等を防ぐものを使用していること
 - ・ 弹薬を含め、すべての金属は常に静電気を除去されるよう措置していること
 - ・ 外部も避雷針で保護し、火災が発生しにくいように設置・運用していること
- など、幾重にもわたる安全措置により、意図しない燃焼や爆発が起こらないよう万全を期して保管しております。

(質問)

- ・ 強靭な火薬庫を作ると言われるが、コンクリート壁の厚さや強度は十分なのか。
- ・ 震度 7 にも耐えられる施設を作るのは難しいのではないか。

(防衛省回答)

- 地上覆土式の火薬庫のコンクリート壁については、火薬類取締法に基づき、厚さ 20 cm 以上の鉄筋コンクリート造とされていますが、今回整備する火薬庫が具体的にそれ以上のどこまでの強度を備えているかについては、自衛隊の能力が明らかになるおそれがあるためお示しできません。
- また、耐震基準を定める建築基準法などの関係法令に基づき、大規模地震（震度 6 強～7 に達する程度）に対しても耐震強度を有する施設を整備してまいります。

(質問)

- ・ 産総研（産業技術総合研究所）のデータベースによると、分屯地内にも活断層が所在しております、地震の際に危険なのではないか。

(防衛省回答)

- 近畿中部防衛局においては、陸上自衛隊祝園分屯地内に火薬庫等を整備するに当たり、基本検討業務の中で、活断層について文献による調査を行いました。その結果、現時点で、奈良方面から分屯地の南縁及び東縁にかけて、活断層の可能性がある地形が分布しているものの、その以北の分屯地内には分布していないことを確認しています。
- ご指摘の産総研のデータベースにおける活断層については、引用元の文献が 1991 年発行の比較的古いものであり、それ以降の調査・研究に基づく近年の文献には記載がないことから、将来も活動すると考えられる断層とは推定できないと評価しています。
- いずれにしても、火薬庫の整備に当たっては、火薬類取締法等の関係法令に基づいて適切に整備を進めたいと考えております。

(質問)

- ・ 分屯地の周辺で山火事が発生した際の消火態勢は整っているのか。

(防衛省回答)

- 陸上自衛隊祝園分屯地として消火施設及び器材を保有し、消防訓練を定期的に実施することで消火態勢を維持しております。

(意見)

- ・ 戦前の禁野火薬庫の爆発事故では、周辺 2 km 圏内に大きな被害が出た。祝園弾薬庫ができてから、周辺の町は学研都市として成長し大きく姿を変えている。近隣には住宅地もたくさんできている。万が一の爆発事故があった際のことが心配。
- ・ 分屯地の所属隊員による殺人事件も発生しているが、今後、危険物に囲まれ緊張が高まる任務の中で、よりストレスが高まらないか心配。

(防衛省回答)

- 防衛省・自衛隊においては、火薬庫の設置に当たって、火薬類取締法等の関係法令に基づき整備するとともに、弾薬を適切に保管してまいります。
- また、防衛省としても分屯地としても、親身に隊員の心情把握に努める等、ストレス管理に万全を期すとともに、隊員の服務指導を適切に実施して、安全・確実に弾薬を管理するよう努めてまいります。

【③ 火薬庫の整備計画に関する質問・意見】

(質問)

- ・ 増設する火薬庫には、どのような種類の弾薬がどのくらいの量、貯蔵されるのか。長距離ミサイルも保管されるのか。

(防衛省回答)

- 個々の火薬庫に保管する弾薬の種類については、その詳細を示すことにより、自衛隊の能力が明らかになるおそれがあるため、お答えすることができませんが、どのような弾薬が保管されるかに問わらず、不慮の爆発で周辺に影響が及ばないよう、火薬類取締法に基づく保安距離を確保した上で整備いたします。

(質問)

- ・ 海上自衛隊との協同運用は行われるのか。

(防衛省回答)

- 祝園分屯地においては、今後、自衛隊の協同運用の一環として、陸上自衛隊の施設管理の下、海上自衛隊の弾薬も保管する計画です。
- 弾薬の管理等はそれぞれの自衛隊が責任をもって行うため、一定数の海上自衛隊員が常駐する予定ですが、具体的な時期や隊員の所属、人数については、現時点では決まっておりません。
- いずれにしても、今後増設していく火薬庫等の施設管理上の責任は、これまでどおり陸上自衛隊が担う予定であり、その点は従前と変わりません。

(意見)

- ・ 住民として、何が保管されるかわからないまま火薬庫の整備を白紙委任してくれと言わっても応じられない。住民主権をないがしろにしている。
- ・ 改めて住民が納得できる説明会を開催してほしい。

(防衛省回答)

- 防衛省としては、分屯地内で増設する火薬庫の計画棟数を含めて、整備計画を事前に公表しており、精華町や京田辺市に対してもご説明しています。
- 今後も、防衛省として明らかにできる内容については、しっかりとご説明をしてまいりますが、自衛隊の能力が明らかになることにより国の安全を損なうおそれがあることから、お答えできない部分があるという点はご理解いただきますようお願ひいたします。

(意見)

- ・ 有事の際に攻撃対象になる。住民にとっては迷惑施設である。工事を中止すべき。
- ・ 子どもを守ってもらいたい。ミサイルで子どもが守られると思うのか。

(防衛省回答)

- 国民の命や暮らしを守り抜くうえで、まず優先されるべきは、積極的な外交の展開であり、自由、民主主義、人権、法の支配といった普遍的価値や原則を重視しつつ、わが国と基本的な価値や利益を共にする米国との間の日米同盟を基軸とし、同志国との連携、多国間協力を推進していくことが不可欠です。
- 同時に、外交には裏付けとなる防衛力が必要であり、そのために、他国的能力や新しい戦い方に対応できるよう、反撃能力の保有を含む防衛力の抜本的強化を推進しています。こうした取組みの一環として、必要十分な弾薬や燃料などを早期に取得・整備するとともに、取得した弾薬を安全に保管するため、陸上自衛隊祝園分屯地を含め、全国的に火薬庫の整備を進めています。
- このような火薬庫の整備を含む防衛体制の強化を行うことは、力による一方的な現状変更を許容しないとの我が国の意思を示すとともに、我が国への攻撃に対する抑止力・対処力を高めることで、我が国への攻撃の可能性そのものを低下させるものであり、国民の安心安全につながるものであると考えています。
- 迷惑施設とのご指摘がありましたが、国の防衛・安全保障にとって必要な施設であるという点をご理解いただきますようお願ひいたします。

【④ その他の質問・意見】

(質問)

- ・ P F O S は分屯地で消火剤として保管・使用していないのか。

(防衛省回答)

- 陸上自衛隊祝園分屯地においては、P F O S が規制された2010年4月以降、P F O S 等を含む泡消火薬剤を使用した訓練や実火災での使用はなく、部外流出事案もありません。
- また、令和6年9月、陸上自衛隊が、祝園分屯地内の隊員の飲用に供する水源の調査を行ったところ、原水中に含まれるP F O S 及びP F O Aの合算値 (34ng/L) は、国が定める暫定目標値 (50ng/L) を下回り、異常がないことを確認しております。